

瀬戸内国際芸術祭 2022 ▲▽▲▽ これから夏会期・秋会期

▲▽▲▽瀬戸内海の島々をめぐる▲▽▲▽

古来より日本列島の大動脈として海上交通網が発達してきた瀬戸内海。今回は高松港から直島・女木島・男木島・宇野、小豆島を船で旅しながら、その美しく穏やかな海に浮かぶ島々と潮風に、瀬戸内海の息づかいが昔と変わらず、現代にも伝えられていることを肌で感じました。3年ぶりに開催された瀬戸内国際芸術祭は春会期を終えましたが、夏会期が8月5日から始まります。また、秋会期が9月29日からなので、これから準備して、島めぐりと芸術祭の両方を楽しむ計画を練るのも楽しいでしょう

▽直島を歩く

直島の玄関口である宮浦港では、日本を代表するアート作家・草間彌生さんの作品「赤かぼちゃ」が訪れた人の目を引く。瀬戸内国際芸術祭実行委員会が主催し3年ごとに開催される「瀬戸内国際芸術祭」は、2022年春会期が終わり、8月から夏会期、そして秋会期の開催に向けて、着々と準備が進められています。

晴天の直島を歩いてみると、プチ南国旅行のような雰囲気に入れ、行く先々で出会う現代アートや風景が、訪れた人たちに海や島の魅力とぬくもりを伝えて、元気と感動を与えてくれます。

▽宇野のチヌ

船で宇野港に到着すると、フェリー乗り場に隣接する公園で「宇野のチヌ」が出迎えてくれる。カラフルなチヌ（クロダイ）のオブジェは、空き缶やペットボトル、家庭からの不要品を集めて作られたもので、第1回目の芸術祭で設置されたもの。その後も「お色直し」を実施し、潮風で劣化したパーツを取り替え、新たに生まれ変わっている。

チヌの顔は直島の方を向いているが、船で20分ほどの直島には、恵まれた自然が体感できる釣り専用のビーチがある。島の南端にある「直島釣り公園」は、1981年に直島町の振興策の一環としてオープンした町営の施設。海に突き出した固定桟橋、釣り桟橋、釣り筏に釣り堀まで備えているので、初心者から愛好家まで楽しめるようになっている。季節によってメバル、カサゴ、チヌ、鯛、アイナメ、スズキなどが釣れる絶好の釣り場である。

▽香川県高松港～女木島 ～男木島を結ぶ「めおん」

「めおん」は海上で行き交うと思わず目を奪われる赤と白のツートンカラーの珍しいデザイン。穏やかな瀬戸内海を航走する「めおん」の雄姿は、青い空と青い海を背景に引き立つ芸術品のようだ。

女木島は別名「鬼ヶ島」と呼ばれ、島の中央に「鬼ヶ島大洞窟」という有名スポットがあり、島のあちこちに点在する鬼のモニュメントも雰囲気を盛り上げる。

この島には古来の遺跡が多く残されており、古墳や石棺のほか、刀や耳飾りなどの副葬品も出土しており、豊かな生活を営んでいたことがうかがいしれる。

鬼ヶ島と呼ばれる由縁は、わかたけひこのみこと稚武彦命の海賊退治が讃岐桃太郎伝説として語り継がれ、その物語の島に女木島があてられた可能性があると伝えられている。